

情報公開文書

1. 研究の名称

屍体解剖による舌下神経の可動性と顔面神経との位置関係に関する研究

2. 倫理審査と許可

この研究は、研究対象者の方の人権が保護されているか、また安全性および科学性に問題がないかについて慎重に審査され、京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を受けて実施しています。

3. 研究機関の名称・研究責任者の氏名

研究機関	：京都大学医学部附属病院			
研究責任者	：京都大学医学部附属病院	形成外科	助教	山中 浩気
個人情報管理責任者	：京都大学医学部附属病院	形成外科	助教	山中 浩気

4. 研究の目的と意義

形成外科では、重度の顔面神経麻痺の治療として、舌の運動神経である舌下神経を顔面神経に縫合することで表情筋の運動機能を回復させる手術（舌下神経移行術）を行っています。一般的には、顔面神経と舌下神経を直接縫合するためには、側頭骨の一部をドリルで削って顔面神経の走行範囲を広く展開する必要がありますが、側頭骨削開の手技は難易度が高く時間がかかり、出血や髄液漏などの重大な合併症も存在することが難点です。顔面神経側を展開する範囲を最小限にするためには、舌下神経を広く展開して周囲の組織から剥離して舌下神経の可動性を得ることが必要になりますが、舌下神経の可動性についての詳細な研究はこれまでに行われていません。本研究では、舌下神経の展開方法とそれによって得られる舌下神経の可動性を評価し、舌下神経移行術の術式の低侵襲化が可能であるかを調査します。

5. 研究実施期間

研究機関の長の実施許可日より 2027 年 3 月 31 日までを研究期間としています。

6. 対象となる情報の取得方法

京都大学医学部 Clinical Anatomy Laboratory (CAL) プログラム（倫理委員会承認番号：R1785、献体を用いた医師・医療従事者の教育・研究プログラム）に基づいて提供いただいたご献体を用いて、舌下神経移行術を想定して顔面神経および舌下神経の剖出を行い、術式について検討します。

7. 情報の利用目的・利用方法

得られた情報は、従来法よりも低侵襲な舌下神経移行術の手技開発を目的とした研究資料として

使用します。プライバシーに十分配慮した上で、専門学会や学術雑誌に発表する場合があります。

8. 利用する情報の項目

舌下神経を広く展開し周囲組織から剥離することで可動性をもたせた状態で、側頭骨外の顔面神経を舌下神経に直接縫合できるかどうかを評価します。術野の展開範囲に応じ、「舌下神経を顔面神経側に牽引・挙上した状態での、顔面神経の一定のポイントから舌下神経までの最短距離」を計測します。

9. 利用を開始する予定日

研究機関の長の実施許可日より。

10. プライバシーの保護について

得られた情報は、プログラムの成果として専門の学会や学術雑誌に発表されることもありますが、研究対象者の方のプライバシーは十分に配慮し、個人に関する情報(氏名など)が外部に公表されることは一切ありません。また、写真等の情報を用いる場合も、個人が特定されないことがないよう慎重に配慮いたします。

11. 研究終了後の結果の取り扱いについて

得られたデータは、プログラム参加者にて保管されますが、個人情報漏えい等が起こらないように細心の注意を払います。

12. 資料の入手・閲覧、提供の停止について

他の研究対象者の個人情報保護や研究の独創性の確保に支障のない範囲内で、この研究に関する資料を入手・閲覧することができます。また、研究対象者またはその代理人の方の希望に応じて、得られた情報の利用や提供を停止することも可能です。ご希望がありましたら、研究責任者にご連絡下さい。

13. 連絡先とお問い合わせ先

何か分からないことや心配なことがありましたら、下記の研究責任者が相談窓口にご連絡下さい。

1) 研究課題への相談窓口

■ 京都大学医学部附属病院 形成外科 研究責任者 山中 浩気

TEL : 075-751-3613 FAX : 075-751-4340

2) 京都大学の苦情等の相談窓口

■ 京都大学医学部附属病院 臨床研究相談窓口

TEL : 075-751-4748 E-mail : ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp

14. 研究資金・利益相反

運営費交付金により実施します。特定の企業からの資金提供は受けていません。利益相反につい

ては、京都大学利益相反ポリシー、京都大学利益相反マネジメント規程に従い、京都大学臨床研究利益相反審査委員会において適切に審査しています。